

# 事業報告

講座名	希少野生動植物種保護支援員研修会（第2回）		
日時	平成26年11月8日（土） 10:00～15:30		
場所	つのしま自然館 牧崎風の公園（下関市豊北町）	参加者数	10人 （県民34人）

## 1 スケジュール

10:00～10:05	開会（つのしま自然館）
10:05～10:35	講義「支援員の役割等について」
10:40～11:15	講義「角島の自然環境について」
11:20～11:50	講義「砂のつぶやき」
12:00～12:45	大浜海岸でユリヤガイ探し 昼食・休憩（牧崎風の公園へ移動）
14:00～15:30	牧崎風の公園でダルマガク等の植物観察
15:30～15:40	アンケート記入、閉会

## 2 活動内容

午前中は、つのしま自然館で、山口県自然保護課二宮貴志氏から「支援員の役割等について」、豊北町自然観察指導員会の小林知吉氏から「角島の自然環境について」と「砂のつぶやき」の講義を行った。

午後からは、牧崎風の公園に移動し、豊北町自然観察指導員会の小林氏、藤岡氏、阿野氏の指導でダルマガク等を観察した。

### ◇ 講義

#### ◆ 「支援員の役割等について」

自然保護課 二宮貴志氏

PWPにより説明（別添資料参照）

#### ◎生物多様性について

##### ○生物多様性とは？ ～ 3つの多様性

生態系の多様性

種の多様性

遺伝子の多様性

##### ○生物多様性がもたらす「恵み」

生態系サービス（供給サービス、調整サービス、文化的サービス、基盤サービス）

##### ○生態系を巡る最近の動向 ～ 「4つの危機」

- ・第1の危機 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
- ・第2の危機 里地・里山の手入れ不足による自然の質の低下
- ・第3の危機 外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱
- ・第4の危機 温暖化などの地球環境の変化

##### ○日本の生物多様性の特徴 ～ 世界的にも日本はホットスポット



- 生物多様性をめぐる最近の動向
  - ・生物多様性の国家戦略（2012～2020）
    - 5つの基本戦略
    - 役割の規定（地方自治体、事業者、市民）
- 山口県の取り組みについて
  - ・「生物多様性やまぐち戦略」の策定（平成25年10月）

◎野生生物の保護に関する制度について

- ①天然記念物の保護
- ②ほ乳類及び鳥類の保護
- ③希少野生動植物の保護
  - ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

○レッドデータブックやまぐちについて

- 掲載種（1,076種）
  - 絶滅危惧Ⅰ類（427種）
  - 絶滅危惧Ⅱ類（313種）
  - 準絶滅危惧（237種）

○希少種の保護対策

- ・「指定希少野生動植物種」の指定
- ・保護増殖事業の実施（H21:保護増殖事業計画を策定）

◎支援員の役割について（現在 780 人登録）

◇ 講 義

◆「角島の自然環境について」

豊北町自然環境指導員会 小林知吉氏

PWPにより説明（別添資料参照）

○地質

牧崎の柱状節理（火山活動によりできたもので須佐のホルンフェルスとは異なる）  
マグマの噴出口（海岸で見られる）

○植物

春（ルリハコベ、ハマウツボ、ハマボッス、イワタイゲキ）  
夏（ハマオモト（はまゆう）、ハマナタマメ）  
秋（ダルマガク群落、ホソバワダン）  
冬（スイセン：夢崎の灯台周辺）

○海の生きもの

ユリヤガイ（5mm程度の巻き貝）  
タツナミガイ、モズクショイ、サケガシラ（深海性：リュウグウノツカイ）  
ゴマフアザラシの迷入（2010年）  
ツノシマクジラの迷入（1998年9月11日）2003年に新種と確定

○鳥類

ミサゴの巣、ハヤブサ（角島大橋の上）、ヤツガシラ、ミヤマガラスの渡り

○雲の形



## ◇ 講 義

### ◆ 「砂のつぶやき」

豊北町自然環境指導員会 小林知吉氏

PWPにより説明（別添資料参照）

#### ○調査した砂浜（県内9箇所）

清ヶ浜（萩市）、二位の浜（長門市油谷）、大浜海岸（下関市豊北町）  
後浜（下関市）、小串浜（下関市）、三軒家海岸（下関市）  
若宮海岸（山陽小野田市）、虹ヶ浜（光市）、逗子が浜（周防大島町）

#### ○砂の組成（鉱物）

長石、石英、黒雲母、生物由来の砂（サンゴの砂、放散虫の砂）  
（大浜海岸の砂は貝殻が多いのが特徴）

#### ○つぶやく砂（鳴き砂）

砂の移動がない等の条件、県内では清ヶ浜、後浜の一部  
油で汚れると鳴かなくなる（バーベキュー等）

#### ○砂浜の生き物

- ・海岸に打ち上げられた死骸は小型の甲殻類の餌  
ハマトビムシの仲間（体長2～10mm）
- ・稚魚の生息地  
シラウオ、シロギス、コトヒキ、クロダイ、コショウダイ、ヒラメ、カレイ類  
はぜ類など
- ・産卵場（代表的なものはウミガメ）

#### ○植物の生育場

砂浜は年間を通して乾燥した場所で、強い直射日光や季節風など厳しい環境

- ・厚い葉、細い葉、尖った葉など水分を逃がさない仕組み  
～ オカヒジキの尖った葉、スナビキソウの厚い葉
- ・深い根と広がる枝 ～ コウボウムギの深い根、オニシバの広がる枝
- ・体を低く、小さくする ～ ハマボウフウ、ハマニガナ

→砂浜の植物はたくましく生きながら、  
同時に砂が飛び散り、砂丘が消滅を防いでいる

#### ○憩いの場

海水浴場、潮干狩りなど

## ◇ 大浜海岸でユリヤガイ探し

この時期、大浜海岸でユリヤガイを見つけることができるので、急遽、海岸に出てユリヤガイ探しを行った

まず、指導員の阿野さんからユリヤガイについて説明を聞き、その特徴、探し方などを教わった。

海岸に出て、30分程度、砂浜を探したが、わずか5mm程度の小さい巻き貝なので、  
見つけることができたのは、参加者のうち、10名程度であった。中には1人で6個見つけた方もおられた。





## ◇ 野外観察会「ダルマガク等の観察」

参加者のうち、14人は牧崎風の公園の入口の無井港付近に車を止めて、豊北町自然観察指導員会の小林さんの説明を聞きながら、車道を風の公園に向かい、更に公園内を散策する約2.5kmのコースで観察した。

他の30人は、牧崎風の公園に車を止めて、豊北町自然観察指導員会の阿野さんと藤岡さんの説明を聞きながら、公園内の約1kmのコースでダルマガク等を観察した。



## ○観察した植物等

＜無井港付近～牧崎駐車場＞

シマカンギク（海岸性植物）、ムサシアブミ、セイタカアワダチソウ  
キカラスウリ（黄烏瓜）、クズ、ヤブマオ、ハマウド、センダン、カラスウリ  
サルトリイバラ、センダングサ、ハマダイコン

＜牧崎風の公園＞

角島の主な秋の花がそろっている（10月下旬～11月上旬）

ハマボウフウ（枯れた）、ツワブキ、ススキ、ハマボス（実）、ダルマガク  
アザミ（春咲く？）、カワラナデシコ、タツナミソウ、

- ・ダルマガクは岬の東側に多く群生、青海島にもあるが群生していない

山陰（島根・鳥取）～長崎に植生している

葉の特徴は、キクラしくない葉形で厚みがある。

細かい毛があり、触るとねとねとする

○植物以外

- ・マグマの吹き出し口

急斜面を降りたところにある。火口はなく割れ目からマグマが吹き出す

- ・岩の筋

溶岩（マグマ）の流れる方向がわかる

## (感想)

つのしま自然館や豊北町自然観察指導員会の小林氏、藤岡氏、阿野氏のご協力を得て、角島の自然環境や砂浜について学習し、牧崎風の公園でダルマガク等を観察する研修会を開催した。

支援員の申込者が13人と少なかつたため、支援員研修会だけでなく、一般県民が参加する環境学習講座として合同開催することとした。

講座として案内した結果、角島という遠隔地にもかかわらず、遠くは平生町や周南市からも申込（全部で55人）をいただき、当日は、44人の参加となった。

ダルマガクは、今年は日照不足で花が少ないと言われていたが、群生して咲いている箇所も多く見られ、初めてダルマガクを見る参加者も多く、満足しておられた。

角島は山口市や防府市からは遠く、自家用車で2時間程度を要するが、多くの方に参加していただいたので、来年度以降も、環境学習講座を開催し、山口県の貴重な自然環境である「つのしまの自然」に触れていただきたいと考えている。